

## 千葉県 佐原大祭観光・伊能忠敬記念館・舟巡り

企画委員会

佐原は千葉県香取市に属し、「北総の小江戸」と云われる町並み散策が楽しく魅力一杯でした。東京都の東側に位置する千葉県、その北側に東流する利根川があり、そこに南側から流れ込む小野川による江戸期の水運で栄えた豊かな歴史の趣が多々ありの観光地でした。

小野川の両側には江戸時代の趣を残す歴史的な建物がずらりと並んでいました。この水路の舟巡りでは、両岸の建物や河岸の荷上場の仕組みなどがつぶさに理解でき、観光の魅力が倍増しました。佐原の偉人は日本全国を初めて測量した伊能忠敬で、その業績を展示する記念館の内容は豊富でした。徒步を基本とした日本全土の測量は大掛かりなものであり、実際に使用した各種の測定器の大きさには驚嘆しました。

今回のご当地観光の目玉は、佐原の秋祭りでした。豪華な山車が威勢よく賑やかに、引き子、囃子子、踊り子などなどが町内を巡行する楽しい様が見学できました。趣向を凝らした山車は、町内毎にあり背が高く派手なもので、それぞれが財力の豊かさを示しているようでした。

これに加えて、佐原の隣の香取神宮参拝をしました。神域が広く、緩やかに曲りながら登る参道を辿ると朱塗りの門に至りました。総門、楼門と二つの門をくぐり抜けると、厳かな本殿に到達です。香取神宮は、全国に400社の総本社に相応しく威厳多々ありました。

日 時：2025年10月10日（金）日帰り  
集 合：東京駅総武線地下3番ホーム 柱番号20番  
付近 午前9時5分  
乗 車：午前9時14分発JR総武本線快速成田空港行  
成田乗換 佐原着11時10分  
解 散：JR佐原駅 午後4時半頃  
観 光：香取神宮；参拝  
佐原まち歩き；伝統的建造物群を鑑賞、樋橋、忠敬橋  
佐原の舟めぐり；小野川往復で水上から町並み鑑賞  
入館；伊能忠敬記念館、伊能忠敬旧宅  
佐原の大祭観光；秋祭りの山車  
参加費：500円  
費 用：往復交通費（東京・佐原 片道1,690円）  
伊能忠敬記念館450円、舟巡り乗船料1,300円  
天 候：晴 気持のよい気候  
順 路：JR佐原駅 → 香取神宮参拝 2時間  
佐原町並み観光・大祭山車見物 → 舟巡り30分 →  
伊能忠敬旧宅20分 → 伊能忠敬記念館30分 →  
佐原町並み観光・大祭山車見物 →  
観光協会土産購入 → JR佐原駅  
距 離：万歩計1万1千歩  
参加者：14名

懇親会：なし、佐原大祭で満足してしまいました。

佐原の位置 千葉県の北部、利根川の南側



### 香取神宮参拝 勢ぞろいの集合写真



### 佐原の大祭 町内毎の山車が巡行

当方は、秋大祭初日でした。佐原の町を東西に分ける小野川の西側の町のお祭りで、佐原駅前広場には諏訪神社のお旅所があり、駅の改札を出るとお祭りの真っただ中に飛び込む感じでした。

国指定重要無形民俗文化財に相応しく、豪華であり賑やかであり、そして町の人たちがうち揃って盛り上げるお祭りでした。感動しました。



### 佐原観光マップ



## 佐原の建物 伝統的建造物群の巡り

北総の小江戸と云われるよう、江戸時代を想像させる今では貴重な建物がそこかしこにありました。小野川の両側にあるのが「重要伝統的建造物群保存地区」です。土蔵造り、下目板張り外壁、堅縦格子窓など、多様な建築様式と仕様が混在し、重厚な土蔵造り商家が軒を並べていました。

### ☆小江戸佐原の町並み 水と緑がある

香取市佐原の町並みの景観は、伝統的建造物群保存地区になっています。



### ☆中村屋商店 正に角店

1874(明治7)年頃から荒物・雑貨・畳を扱っていました。角店なので、角柱は五角形の断面でした。



### ☆正文堂 右端の建物

大黒柱が檜、2階窓は土塗開き戸。1880(明治13)年の建築です。



### ☆正上醤油店 舟からもはつきり屋号

1832(天保3)年建築で、一番古い建物。土蔵は明治初期の醤油が祖業です。



### ☆小堀屋本店 看板は業種を示す

1782(天明2)年創業、蕎麦作りの秘伝書と道具類を保存しているそうです。表の戸は1902(明治35)

年に、佐原で初めてのガラス戸だそうです。一階の屋根にのせた看板は、歴史の趣あります。



### ☆中村屋乾物店 実に懐かしい店構え

1892(明治25)年の大火直後の建築。壁厚は45cmもあるそうです。



### ☆旧油惣商店 格子戸が趣あり

1794(寛政6)年創業で、奈良漬けを始めたそうです。酒造業銘柄は「菊華」でした。



### ☆JR佐原駅 将来は歴史的遺産になるのか・・・

佐原の町並みを形成している軒が連続する町屋をイメージして、デザインされています。町の景観によく溶け込んでいました。



### 佐原の水運 町の経済発展の基い

徳川家康が関東を拝領後、天領や幕府知行地になり江戸時代には武士がいない村でした。

水運事業拡大の大工事により、利根川は付け替えとなり、東流する現在の河道に改修されました。忠敬橋を中心に、町並みが形成されました。

銚子から江戸への利根川水運路が整備され、佐原は利根川筋の主要な河湊として、東北諸藩の年貢米や周辺地域の物資の集散地として繁栄しました。

「お江戸みたけりや 佐原へござれ 佐原本町江戸まさり」こう謳われるほど、交通・経済・文化の中心として発展し、立派な町屋が軒を並べたそうです。

## 佐原の舟めぐり

さわら舟めぐりでは、江戸情緒が残る佐原の町並みをゆったりと舟上から眺めることができました。30分の船旅で船頭さんの観光ガイドが軽快でした。

乗船は、伊能忠敬旧宅の前にある荷上場「だし」からでした。



## 樋橋 通称ジャージャー橋

伊能忠敬旧宅近くの橋が、樋橋（とよはし）です。川をまたいで農業用水を通すための橋で、人も通れます。樋から水があふれ落ちる音から「ジャージャー橋」といわれるそうです。

舟巡りを終え下船した時、水がジャージャー落ちていました。



## 伊能忠敬記念館

佐原ゆかりの有名人の伊能忠敬は、日本全国の沿岸地図を隠居した後に17年間をかけて作製しました。まさに偉人中の偉人です。

記念館には、実際の測量器具、測量図、日記などの展示がありました。地図は、「伊能図」と呼ばれ伊能忠敬の生涯をかけた業績の集大成です。

日本全国を徒步が基本の測量はかなりな大掛かりなもので、人力に頼らざるを得なかった当時の状況を知ると、ますますその尽力に頭がさがりました。



## 伊能忠敬旧宅

伊能忠敬記念館と川を挟んで真向いにあるのが、伊能忠敬の旧宅です。店舗、炊事場、母屋、土蔵などがあり、町並みによく溶け込んでいました。



## 香取神宮

佐原駅からの循環バスで、30分の距離にありました。下総国の一宮で、全国に400社ある香取神社の総本社です。

### ☆朱塗り鳥居

参道の木々そして数々の石灯籠など、これぞ参道という雰囲気を感じました。



### ☆朱塗り楼門

見上げる高さで、両脇では随身が守りを固めていました。右が竹内宿祢、左が藤原鎌足だそうです。



### ☆拝殿

黒漆塗でかつ金が映えていました。ともかく、大きくて立派な神社でした。



### ☆参道の石燈籠

参道は広く、両側には石燈籠がずらりと並んでいました。



### ☆参道の茶屋・お休み処

お休み処は、間口が広く構えも立派、そんじょそこの神社とは格式が違うぞという風情でした。

昔懐かしいあんこたっぷりのくさ団子、みたらし団子のお店が並び、一方ではモダンなケーキや、香り高いコーヒーを提供するお店があり、今昔対比です。



### 佐原の大祭 秋祭りの山車

佐原の大祭は関東三大山車祭りの一つ、300年の伝統で、国の重要無形民俗文化財です。写真は、当日出合った山車で、どれもこれも絢爛豪華、華やか賑やかでした。町ぐるみで、絆の深さを感じました。

### ☆諏訪神社 秋の大祭はここが祭礼の元

一番地味目でした。



### ☆小野道風

故事にちなんだ柳とカエルがみえました。



### ☆源義経

いまだ人気衰えず、勇壮な様でした。



### ☆日本武尊

神話の世界も登場です。



### ☆大楠公

忠義勇壮な武人は人気あります。



### ☆神武天皇

一振りすれば国を治めることができる、という巨大な直刀「布都御魂剣」を手にした堂々たるお姿。



### 参加の感想

#### (東京都世田谷区)

佐原への旅は、天候にも恵まれ、素晴らしく大きな祭りの山車が道筋、道筋に現れて、久しぶりに子供の頃に味わった祭りを思い出した一日でした。

伊能忠敬の人物像も、偉人伝の本を好んで読んだ時期もあり、何か知人に会ったような親しみを覚えたのは私だけでしょうか。今後の企画も楽しみです。